

平成 28 年度 第 3 回 学校協議会

<協議会委員>

名 前	職 名
松 宮 新 吾	関西外国語大学教授
河原林 昌 樹	弁護士
澤 邊 正 人	大東市立深野中学校長
小 寺 弘 明	門真市立第四中学校長
三 村 泰 久	門真市教育委員会
河 野 麻 紀	門真なみはや高校 P T A 会長

欠席者 小寺委員

<事務局>

宮 田 幸四郎	教頭	山 中 えみこ	進路部長
片 倉 勝 則	事務長	山 口 周	生徒指導部長
辻 敏 彦	首席・1 学年主任	宮 菌 賢 二	生徒会指導主担
三 井 和 夫	首席・3 学年主任	藤 田 和比郎	保健部長
山 村 裕 子	指導教諭	大 倉 安 央	総務部長
藪 内 照 貴	教務部長	西 田 恭 子	2 学年主任

欠席者 宮田幸四郎 辻敏彦 藪内照貴

<開催日時> 平成 29 年 1 月 25 日 15 時～16 時 45 分

<次第>

○学校長挨拶

○協議

<審議事項>

- 1 平成 28 年度学校経営計画及び学校評価、
平成 29 年度学校経営計画について
 - 2 第 2 回授業アンケートについて
 - 3 教育活動に係る保護者からの意見について
- その他

<報告事項>

- 1 本校教育活動について
- 2 その他

<意見・要望>

○平成 28 年度学校経営計画・学校評価について

- ・「自宅学習しない生徒」とは、塾に通っている生徒も含まれるのか。
⇒含まれる。また、家でしないからといって早朝学校で宿題をこなす生徒もいるので、意欲がないわけではない。
- ・生徒が「教え方を工夫している先生が多い。(72%)」と評価しているが、教員同士の授業の工夫や改善について、まだどんな課題があるのか。
⇒初任者の研究授業が年に1、2回というのが今後の課題、ただし、30代教員相互の授業見学は非常に活発。生徒が「聞く」ではなく、「聴く」の状態にすることに腐心したい。
- ・中学校の進路指導教員の総合学科の認知度を高めるということも必要であるが、もっと“なみはや”ではこんなことを、やっている。やりたい。と具体的に発信してほしい。
- ・中学校では「総合学科とは」を十分にわかって指導する先生はいないかもしれない。むしろ、中学生が直にオープンスクールに行き自ら判断してもらう方がよいのでは。

○平成 29 年度学校経営計画（素案）について

- ・計画素案には書かれてはいないが、本校渡日生徒が本国への「リユース運動用具寄附」について自ら企画し、本校生徒も巻き込みながら、本校運動部のみならずいろんな民間団体へも断られながらも足繁く通い、見事実現した事例や大阪市イベントにボランティアのインバウンド通訳（中国語）として参加し、大阪市営地下鉄から表彰された事例、さらに「地域清掃」を伝統的に続けている、まさに地域に根付いた本校運動部について紹介した。
⇒事例について、生徒が自ら「考える」「地域貢献を行う」「国際貢献を行う」と、まさに本計画素案に沿っているのではと委員から好評価を得た。
- ・素案に書かれている本校のユニークな背景は、“なみはや”のキャッチコピーになるのではないかと。
- ・来年度はカリキュラムマネジメントが重要。旧と新のシラバスマネジメントは、教員の意識が大切。
- ・生徒本人が抱えきれない前に必要な安全安心の相談体制の充実が必要。

<報告>

各分掌からの振り返り資料をもとに説明。